

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第23号



2018年6月17日発行

発行責任者 岡田守弘

芳川玲子

〒259-1292

平塚市北金目4-1-1

東海大学文学部心理・社会学科

「芳川玲子」研究室

巻頭言

「チーム学校」における学校心理士の立ち位置を考える

～一つの私的見解として～

中学校教諭として教師人生を歩み始め、いよいよ「ゴール？」の年を迎えます。37年間、心身共に健康で働くことができたのは、先輩・同僚・後輩教職員の皆様と家族の支えのお陰だと、感謝しています。

新米教師として着任した当時（1980年代）、全国的に中学校は「荒れて」いました。先輩や同僚の生徒との関わりを見ながら、指導しました。

異動した2校目では生徒指導担当の校務分掌を担わせていただき、生徒指導の前面に立って行動しました。その学校に勤務しながら、横浜国立大学で教育相談を学び、岡田先生と出会い、心理学や教育学を教えてくださいました。

3校目では不登校の生徒を対象とした学級の立ち上げに関わり、担任を務めました。

その後、市教育委員会の教育研究所で教育相談や教職員研修に携わりしました。

非行、不登校、発達障害等の子どもたちと関わる中で、コーディネーターとして学校内で勤務したのは、4校目の学校だったと思います。

既に岡田先生の勧めで学校心理士の資格を取得していた私は、自惚れもあったのでしょうか、校務分掌のコーディネーターに立候補しました。

当時はなり手がいなかったこともあり、希望は叶えられました。しかし、現在のようにコーディネーターの役割が知られていなかったため、この仕事だけ行えば良いというわけではありませんでした。校長先生から依頼されたメインの校務分掌は、前年に引き続いての教務主任でした。

教務主任の仕事は、管理職を補佐して学校運営を行う「実働部隊」です。様々な仕事を管理職から依頼されました。しかし、そうした教務主任と兼務していたからこそ、コーディネーターとして非常に働きやすかったと思います。

それは何故か？…教務主任は各学年主任や生徒指導担当、進路指導担当、養護教諭と常に連携（コミュニケーション）を取っている立場にあったからです。つまり情報を得やすかったということです。また、教職員が教務主任の仕事内容を熟知していて、「あいつが言うならば聞いてやるか」という人間関係ができていたからだと思います。

コーディネーターと教務主任の兼任は2年間で終わってしまいましたが、素晴らしい体験をさせていただいたと思っています。

現在、管理職の立場となり、教務主任とコーディネーターを兼務したいという申し出があったら、他の校務分掌を軽減してでもその方をお願いしたいと考えます。その方が学校心理士や他の資格を持っていれば尚更です。

「チーム学校」の中での学校心理士の立ち位置は、マンパワーの源となる校内の「ハブ」的校務分掌を担うことが効果的だと思います。学校心理士の皆さん、来年は是非、立候補してみてください。学校全体を見据えたうえでのコーディネートが行えますよ。

(神奈川支部役員：北村 耕一)

第46回研修会報告

日時 2017年10月22日(日)

場所 ユニコムプラザさがみはら

学校心理士として知っておきたい学校危機管理－東日本大震災の経験に基づく今からの対応 －講師：湘南台心理教育相談室／前岩手大学教育学部教授 我妻 則明 先生

第46回の研修会では、東日本大震災発生当時岩手大学教育学部の教授であり、日本学校心理士会北東北支部長でいらした我妻則明先生にご講演いただいた。



神奈川県のご想定によれば、県下の全市町村に震度6以上、川崎市、横浜市から湘南地域、県央地域、県西地域にかけて、震度7の揺れが想定され、人口の約3分の1が避難者になると想定されている。すなわち、先生方は避難者であると同時に、支援者としての役割を果たさなければならないということを、知っておかなければならない。

また、災害では想定外のことが起こるので、平時からマニュアルを整備したり、実際的な防災訓練を実施したりしておくことはもちろんだが、ひとたび災害が発生した時は臨機応変の行動が重要となる。

東日本大震災の時、岩手県の学校には県外のカウンセラーが配置されたが、そのことがかえって学校の負担を増すことになってしまった状況があった。災害発生直後は、必ずしも心のケアは必要ない。必要なのは衣食住であり、学校であれば学校を早く再開するための人手である。子どもにとって一番の心のケアは、一刻も早く学校を再開して普通の学校生活を送らせることであり、そのためには、学校の業務を熟知している退職教員の学校心理士をボランティアとして登録しておき、いざという時にある程度の期間派遣できる体制を整えておくことが有効ではないか。

愛情を持っていた人との死別を経験した大多数の人が持つ正常な感情が悲嘆である。死別後、6か月以上続き、社会的、職業的または重要な領域における機能障害を起こすのが複雑性悲嘆である。複雑性悲嘆となって治療が必要になることを防ぐには、健康で当たり前の生活を堅持することが大切である。子どもたちには、可能な限り早くに、以前と同じ保育や教育を実施することが必要なのだ。

第47回研修会報告

日時 2018年2月18日(日)

場所 ウィリング横浜

スクールソーシャルワーカーの考え方と、その実務—藤沢市における実践より—

講師：藤沢市学校教育相談センター スクールソーシャルワーカースーパーバイザー
星操先生

今回の研修会では、スクールソーシャルワーカー（以下、「SSW」）について神奈川支部役員の大草正信先生からの講義に続いて、藤沢市学校教育相談センターのスクールソーシャルワーカースーパーバイザーである、星操先生にご講演いただいた。

SSWの発祥は1900年代のアメリカ、移民の時代である。日本では、戦後混乱期の貧困による不就学に対する学校社会事業が前身である。その後、1980年代のバブル期に所沢市で初のSSWが配置されたが、全国配置とはならなかった。各地での様々な取り組みを経て、2008年、虐待・貧困など、複雑化した家庭環境への支援の必要性から文部科学省が予算化、各都道府県で本格導入された。しかし、人数は都道府県に数名、回数も教育事務所に週1回であったため、藤沢市では2010年から市独自で導入・配置している。

前述のような複雑化した家庭を学校が支援するためには福祉機関との連携・協働が必要だが、円滑にいかないことがある。たとえば、児童福祉法が改正され、虐待について通告義務が示されたが、実際には「発見したらどこに連絡すればいいのか」「そこに連絡したらどうなっていくのか」といったことについて誰に聞けばいいのか、学校は不安を感じることもある。また、子どもの6～7人に1人が貧困と言われている状況の中で、『生活保護』と『就学援助(準保)』との違いが分からない」という声をよく聞く。同じ日本人でも教育と福祉とではいろいろな点で文化と言語が違うので、間に入る人、すなわちSSWが必要になるわけだ。



支援を円滑にすすめるため、相談が入ったら可能な限り足を運び、既に支援を行っている学校組織をアセスメントする。学校組織の指示系統や教職員の関係性等を把握した上で、その組織にあった支援の方法や、いわゆる「報・連・相」の方法などを一緒に考えている。

とにかく、ケース会議等の中で「会議をやってよかったなあ」「少し前が見えたなあ」等と感じていただき、支援者みんなが安心して支援を行っていく、それが子どもを守ることに繋がっていくのではないかと考えている。

本の紹介



「教師・保育者のための教育相談」大野精一[編著] 長谷部比呂美・橋本千鶴[著]

萌文書林 2017年9月19日発行 定価2100円(税別)

教育相談（カウンセリング）について、学校や園で教育相談（学校教育相談）を行う全国の教師・保育者の方々や、将来、教師や保育者になることを目指して養成課程に学ぶ学生の方々に向けてまとめています。学校や園における教育相談（カウンセリング）についての理論や実践的な体系について理論的・歴史的に整理し、子どもの発達の連続性、幼児期から思春期までの発達を見通した視点から教育相談（カウンセリング）を進められるよう、幼児期の問題・課題に加えて、小学校や中学校での教育相談（カウンセリング）にもふれています。

2018年度の主な予定

- 総会 日時：平成30年6月17日（日） 会場：神奈川県民ホール大会議室
- 神奈川支部研修会
 - 第48回研修会 日時：平成30年6月17日（日） 会場：神奈川県民ホール大会議室
講師：張 賢徳（日本自殺予防学会理事長、帝京大学医学部教授）
テーマ：思春期のメンタルヘルス～青少年・若者の自殺について～
 - 第49回研修会 日時：平成30年10月21日（日） 会場：ウィリング横浜
講師：渡辺 弥生（法政大学文学部教授）
テーマ：ソーシャルスキルトレーニングについて（仮）
 - 第50回研修会 日時：平成31年2月24日（日） 会場：ユニコム相模原
講師、テーマともに未定
- 日本学校心理士会 2018年度大会
 - 日時：平成30年7月27日（金）、28日（土）
 - 会場：東京成徳大学
 - テーマ：生涯にわたる幸福をめざし、子どものレジリエンスを高めよう

お知らせ

■日本学校心理士会 2018年度大会について

既に参加申し込みをされている方も多いのではないかと思います。日本学校心理士会2018年度大会は、第20回日本学校心理学会大会と共に、第40回国際学校心理学会（ISPA）東京大会としてプログラムを共有します。国際学校心理学会は7月25日（水）～28日（土）に英語プログラムとして行い、日本学校心理士会2018年度大会と第20回日本学校心理学会大会は、7月27日（金）～28日（土）に日本語プログラムとして行われます。

7月27日（金）19時より予定している情報交換会（懇親会）は、神奈川支部が担当します。定員に満たない場合は当日参加も可能ですので、ぜひ、ご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

【編集後記】新年度がスタートして、早くも2カ月が経ちました。夏休みまでまだ少し間があるということで、学校内には疲れを見せている子どもや大人もいるのではないかと思います。ただ、明らかに元気のない人たちに対しては何かと支援の手が差し伸べられますが、一見元気に見える「過剰適応」の子どもや大人に周囲は気づき難いものです。この時期、学校の中に頑張りすぎて限界を迎えそうになっている人がいないかどうか、気を配っていききたいものです。 ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp（編集部）